

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 平田 めぐみ <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している					
<<科目目標>> 役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ					
<<成績評価の方法>> 筆記試験・実技試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 文献学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴			講義
2	2	成人各期の健康問題			講義
3	2	生活習慣に関連する健康障害			講義
4	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念(病みの軌跡・セルフケア)			講義
5	2	成人への看護に有用な概念(ストレス・危機・自己効力)			講義
6	2	成人の学習の特徴と看護			講義
7	2	看護における教育・指導技術			講義
8	2	健康教育演習のオリエンテーション			講義
9	2	情報収集(面接)			演習
10	2	情報収集(面接)			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況との確認と評価(面接)			演習

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float: right;"><b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></span> 成人看護の実務経験を活かして、主な慢性疾患患者の特徴やアセスメントの視点、看護の方法に関する基礎知識を教授している。					
<b>《科目目標》</b> 慢性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、セルフマネジメントできるよう自己の力を引き出す看護を学ぶ					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験、レポート					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある人への看護の考え方			講義
2	2	慢性期の概念 慢性疾患とその治療の特徴			
3	2	慢性期にある人の特徴の理解と看護援助 慢性期にある人の心理・社会的特徴 病みの軌跡			講義
4	2	障害受容のプロセス エンパワーメント・自己効力感			
5	2	COPD についての理解・酸素カニューラ体験について			講義
6	2	慢性の呼吸機能障害を持つ人の看護(COPD)			講義・演習
7	2				
8	2	糖尿病の理解			講義
9	2	糖尿病を持つ人の看護			演習
10	2				
11	2	血糖測定			演習
12	2	慢性腎臓病の理解			講義
13	2	慢性の内分泌環境調節障害を持つ人の看護(腎臓病)			講義
14	2	慢性心不全の理解			講義
15	2	慢性心不全を持つ人の看護			講義

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、リハビリ期の疾患や患者の特徴、アセスメントの視点、看護援助方法について教授している</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>リハビリテーションを必要とする人の、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、セルフケアの再獲得ができるよう、自己の力を引き出す看護を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・課題レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>7～12回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーション看護 時期・目的からみたリハビリテーション看護			講義
2	2	リハビリテーション看護の対象と心理 リハビリテーション看護の方法			講義
3	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護			講義
4	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護			講義
5	2	呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義
6	2	障害者を支える制度 多職種連携のあり方			講義
7	2	看護過程の展開：事例提示			講義
8	2	看護過程の展開：疾患理解			講義
9	2	看護過程の展開：データベースアセスメント			演習・講義
10	2	看護過程の展開：フォーカスアセスメント・看護計画①			演習・講義
11	2	看護過程の展開：フォーカスアセスメント・看護計画②			演習・講義
12	2	看護過程の展開：フォーカスアセスメント・看護計画③			演習
13	2	看護過程の展開：発表			演習
14	2				
15	2	看護過程の展開：まとめ			講義

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業</span> <input checked="" type="checkbox"/> がん看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
<<科目目標>> 学習目的：看護師が看護実践するために必要ながん・終末期看護の知識について理解する 学習目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽にその人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ</li> <li>・終末期にある人の心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学び死生観を養う</li> </ul>					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材（教科書）及び参考図書>> ① 系統看護学講座：別巻 がん看護学 医学書院 ② ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 ③ 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
<<授業外における学習方法>> 指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	がん看護学の対象となる患者のすがた がん医療の現在と看護①がんを取り巻く状況②がんについて知る			講義
2	2	がん治療における看護の重要性 がん患者の心理的サポート がん治療の場と看護			講義
3	2	がん患者の看護がんの苦痛に対するマネジメント (ペインコントロールを中心に)			講義
4	2				
5	2	がんの治療に対する看護①化学療法			講義
6	2				
7	2				
8	2	がんの治療に対する看護②放射線療法			講義
9	2	終末期にまつわる言葉の整理			講義
10	2	死をめぐる倫理的課題の理解			講義
11	2	意思決定を支える看護			講義
12	2	終末期におけるトータルペインと看護(スピリチュアルケアを中心に)			講義
13	2	死にゆく人の心理過程を深める			講義・演習
14	2	臨死期のケア			講義
15	2	終末期看護の在り方を考える 家族ケア			講義

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授する</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>文献学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・演習
3	2	ショックとその対応			講義・演習
4	2	心停止とその対応			講義・演習
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
6	2	脳死と臓器移植			講義
7	2	クモ膜下出血の看護			講義・演習
8	2	急性心筋梗塞の看護			講義・演習
9	2	意識障害への対応①			講義・演習
10	2	意識障害への対応②			講義・演習
11	2	急性呼吸不全の看護			講義・演習
12	2	体位ドレナージ			
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅴ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
≪科目目標≫ 周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・レポート					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 医歯薬出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 疾病と治療Ⅴ(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	手術室の環境・手術室における看護・麻酔・Moore 分類			講義
3	2	生体侵襲理論・循環器系・呼吸器系への影響と看護			講義
4	2	消化器系・術後感染への影響と看護			講義
5	2	術後におこりうる問題を考える・関連図・アセスメント・看護計画			講義
6	2				
7	2	アセスメント・看護計画における補足説明／麻酔や手術に影響を及ぼす事項			講義
8	2	術後の看護 術後ベッド・ドレーン種類/挿入部位/管理			講義
9	2	事例における疾患の理解(胃がん・幽門側胃切除術)			講義
10	2	クリニカルパス・術後の生活を考える・患者指導			講義
11	2	事例における関連図の作成・アセスメントと看護を考える			GW
12	2				
13	2				
14	2	事例から術後1日目の看護を実践する			演習
15	2				